

が昨日のようだ。牛丸幸也さんと、何としても甲子園出場を「漢字から数字に」彼は物凄いこだわりを持っていたが、それも59回60回と連続出場を果たしたので満足したかと確かめたら、幸也さん曰く「2桁にしたい」。随分彼も欲が深いんだと改めて感心した。これも太田と言う人材がなし得たことであることを確認しておきたい。幸也さんは今は欲を出さずに静かに過去の自分の行動を想い浮かべ満足しているのではないかと思っている。太田さんの③から④になるまで又14年を費やしたが、この間、吉方さんに何遍となく「太田を再び」と言われたが、私は返事の仕様がなかった。しかし、これ程までに信頼されている太田久

さんと言う人は幸せだと痛感している。

東京へ出てきてから、いろんな方と接する機会が多くなったが、話題がスポーツのことに及ぶと必ずと言っていい位、加藤廣志先生のバスケット（勿論最近では現加藤三彦監督も含めてだが）になる。確かに偉大な業績の先生であることは勿論だが、野球の太田久元監督の名伯楽振りを言わずにはおかない。私の人生もそろそろ終りに近づいているようだが、この場をかりていろいろご迷惑をかけた方やお世話になった方に心からお礼を申しあげる。能代高校硬式野球部益々の発展と成長を祈念してやまない。



◎昭和21年

- ・春季県北（6月）
（能代中・能代工・大館中・鷹巣農）
決 勝 能代中1－3大館中
- ・第28回全県大会（12校出場）
2回戦 能代中12－0横手中
（加藤・村木－佐藤）
準決勝 能代中5－6大館中

能代中	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5
大館中	0	6	0	0	0	0	0	0	×	6

（能代中）加藤－佐藤

（大館中）泉－松江

〈監督〉平川 民治

〈部員〉5年生

◎池井 安昌（◎主将）

大山 正晴

加藤 武

佐藤 勇一

戦後復活第1回目の 甲子園出場を目指して

大 山 正 晴

戦中・戦後の激動と変遷を続けておった社会情勢の中、昭和20年8月15日の終戦と同時に、当時最高学年の4年生であった我々は、敗戦のショックと共に、日本の将来に対する不安を抱きつつ、勤労動員から解放され学業に復帰したが、何分にも樽子山の校舎は焼失後、未だ再建していないため、旧第一小学校跡（現在の市役所第二庁舎）の借用中の校舎を使用し、何かと不便な状態であった。

そんな訳でスポーツらしいことは暫くできなかった。運動部の復活が早かったのは、鉄棒や跳び箱・マットなどが学校にあった体操部が、最も早く練習を開始したのである。

野球部は、用具等どこにも売ってないから簡単

に活動することができなかった。

翌昭和21年3月、私達は4年生で卒業しても良かったので、3学級150名中の半数以上が、上級学校への進学と就職等で卒業していった。5年生に進級した私は、4月に入ったら同じ町内の1学年後輩の吉方君が、野球用バットを持って通学しているのを見て、それに刺激を受け私も昔、三角ベースを遊んでおった経験から、野球部に入部しようかなあと考えていた所、同級生の佐藤勇一君からも誘われて入部した。

我々が1年生に入学した昭和17年、各部の活動はまだあった。池井安昌・加藤武・佐藤（勇）の3君は既に入部していたが、戦後の復活に際し私の外に2～3人の方が入部した。1年後輩には村木・通沢・市川・田畑・吉方・金田一・牛丸（マネージャー）の各君がおった。

21年6月になって間もなく、大館中学との練習試合が当校のグラウンドで行われた。硬式ボールがないため軟式ボールで試合をしたのである。スコアは4対2位で私達が勝った。（当時はスポーツ、娯楽などがなかったので、バックネット裏からライト・レフトの両側まで数千人の観衆がおった。）

そして、戦後復活第1回目の甲子園出場を目指し、練習に励んだのである。

監督は、戦前から監督を務められている初代平川民治氏で、雨降りの時は机上でルールや試合運びの技術とセオリーを、くどい位に徹底的な教示を受けた。

平川民治監督より指導された私達としては、平川イズムの能代中学野球部を愛する強烈な思いが、その後の監督にも継承され、後年の甲子園出場へとつながったものであろうと考えている。なお平川監督に対する思いは、佐々木満先輩の昭和60年4月20日平川民治先生への「惜別のことば」に、全て集約されているものと痛感している。

グラウンドでは、復員してきた多くの先輩・佐藤憲一郎氏・相澤東一氏を筆頭に、柳谷（健）・小林治・村中・鈴木（音）・杉原・金谷（忠）・今（久）等々の先輩各氏、大勢の皆さん達に気合いを掛けられながらシゴかれたのである。そのため私達も必死

になって練習し、上達していった訳です。

特に私は、一塁手のため捕手用のプロテクターをつけて、ワンバウンドの捕り方を徹底的に練習させられた。その時の突き指でいまでも左手の人差し指の先が変形している。

7月になって、戦後の極端な食糧難の時代であったが、勝永先輩の能代駅前にあった勝永旅館に合宿した。諸先輩達は練習での技術指導のほかに、食糧の買い出しに奔走してくれたことは本当に有難く、それだけ監督・先輩達の意気込みと期待が大きかったことである。加藤・佐藤のバッテリーを擁し、創部以来、戦前の最強チーム鈴木（音）・杉原のバッテリーに匹敵するチームであると言われ、全県優勝そして奥羽大会・甲子園出場も夢ではないと皆さん初め、我々もそう思って大会に臨んだのです。

さて、全県大会では1・2回戦を勝ち進み準決勝は、大館中学との対戦だが春の練習試合で勝っているの、勝てるものという過信があったのか、前半リードしていたところ中盤になって、内野手の暴投に始まり、高く上がった内野フライを私と加藤投手とがぶつかり捕り損ね、引き続き内野ゴロに打ちとったのを連続再三のトンネルエラーが出て、折角リードしておった5点差が、あっという間に逆転され、6対5で敗れ去ったのである。

チーム全体のエラーが1回に4～5回も続けば、5本のヒットを与えたことになり、どんなに良いチームでも負けるのは当然であり、その無念さが現在も試合を見て、四球やエラーが連発すると思ひ出され、実に残念で時には夢に見ることもある。

当時のチームメンバーは、1番～（6）池井、2番～（5）市川、3番～（1）加藤、4番～（2）佐藤、5番～（7）村木、6番～（3）大山、7番～（8）田畑、8番～（4）金田一（加賀）、9番～（9）通沢（吉方）。

昭和23・24年3月卒業

第19期

昭和21年秋季～23年夏季



◎昭和21年

・秋季県北（4校リーグ）

能代中 5 - 1 能代工

能代中 9 - 1 鷹巣農

◎昭和22年

・春季県北

能代中 2 - 3 鷹巣農

・第29回全県大会

能代中 9 - 7 角館中

能代中 1 - 10 湯沢中

能代中	0	1	0	0	0	0	0			1
湯沢中	0	4	2	2	0	2	×			10

（能代中）村木・吉方・田畑一通沢

（湯沢中）次田一高橋

〈監督〉平川 民治

〈部員〉5年生

小野崎(市川)士楼

金田一哲哉

吉方 盛恭

田畑太惣治

牛丸 幸也

◎昭和22年

・秋季全県選抜

能代中 2 - 4 湯沢中

能代中 3 - 4 本荘中(3位決定戦)

—————*—————*—————*—————

昭和23年4月 新学制実施により学校名が「秋
田県立能代南高等学校」となる。(新制1期)

◎昭和23年

・第30回全県大会

1 回戦 能代南 6 - 0 金足農

2 回戦 能代南 13 - 2 大曲農

準決勝 能代南 8 - 7 大館鳳鳴

決 勝 能代南 4 - 11 秋田南(現・秋田高)

能代南	0	0	0	0	0	0	2	2	0	4
秋田南	2	0	0	0	6	3	0	0	×	11

(左) 小笠原

(捕) 通 沢

(中・投) 村 木

(投) 本 庄

(一) 加茂谷

(三) 飯 坂

(二) 齊 藤

(右) 上 田

(遊) 小 坂

〈監督〉鈴木 音安

〈部員〉3年生

◎村木欣四郎

畠 昭男

通沢 輝之

波瀾にみちた我ら青春時代

第19期(昭23卒) 金田一 哲 哉

昭和18年4月 旧制能代中学入学。入学と同時に鋏、地下足袋を渡される。“ハテナ”、農業校に入っただけではないのに？ ゲートル巻いて登校の戦時少年時代であった。

昭和19年2月 火災により校舎全焼。教室の窓が上下に開閉するという、大正13年建築のモダンな校舎であった。仮校舎は現市役所第4庁舎(旧尋常小学校高等学科)にて。同年4月～5月樽子山旧能中グラウンド(ダイヤモンドを含む)は、戦時食糧増産のため畑として掘り起こされ、じゃがいも、さつまいもなど植えられた。

昭和20年8月 敗戦(終戦ともいう)。

“欲しがりません勝つまでは”で頑張ってきたが茫然自失。“欲しくとて物も無ければゼニもなし”の戦後食糧、物資不足の生活始まった。

昭和21年4月(旧制4年生)

野球部再出発するも、樽子山のグラウンドは、無惨な畑地状態。関係者、先輩の懸命な努力によ

り、馬車で山から赤土を運び込み、それらをふるいにかけて小石を除き、モッコで畑地になっているダイヤモンドに運び、手押しポンプで水を汲み、木製桶2つを天びんで担いで水をまき、むしろを敷いてドラム缶大の石ローラーを引いて整地、グラウンド造りに1ヵ月あまりの重労働に汗を流す。授業終了後、校舎から約1.5軒の樽子山まで徒歩で通っての作業だった。

やがて、諸先輩復員により帰郷、グラウンドに顔を出してくれる。当時、我々にはグローブはおろか、道具すべて無。地下足袋はいて走っていたものだ。学校で準備したボール（軟式）、バットと諸先輩の使用したグローブ等を借りて練習。

戦後初めての公式戦県北中等学校野球大会は、軟式ボールで行われた。部員は15人前後。食糧難で米粒に大根、じゃがいも等のまぜご飯で、副食物もたくあん、梅干、塩辛といったものだけという貧しい食事で、今の栄養の3分の1程度、飲み物も水だけ、それも汗が出ると疲れるとのことで制限され、今では考えられないことの連続でした。野球ばかりでなく他のスポーツにもいえることで、本当に大変な時代でした。

県北大会終了後、7月の全県大会では、本来の硬式ボールを使用することになり、これまた大変なことで、ボールの入手、更に価格の問題等、部活費で活動するには負担が大きく、例えばボール1コの値段が、当時（昭和21年）60円～70円であったと記憶しているが、その頃、先生の給料は、1ヵ月1千円以内であったと思う。

それでも熱心な裕福な諸先輩のお陰で、全県大会前には、駅前の先輩の旅館で合宿練習までやり、白いご飯をたらふく食べたことは未だに忘れられない。

全県大会は、12校出場、当校2回戦から出場、横手中学に圧勝、準決勝で大館中学と対戦、逆転で敗退、泣きながら八橋^{たんぼ}の田圃みちを帰ったことを思い出す。

現公民館入口前の大きな松の木3～4本に、えぐられたような傷跡が残っているが、我々がバット素振りや打ちつけた60年前の跡である。共に涙、汗を流した級友7人のうち4人が故人となり（村木、通沢、市川、牛丸）、今は亡き級友の在りし姿を偲びつつ、ご冥福を祈る。

〈吉方…横浜在、田畑・筆者…能代在、共に元気〉



◎昭和23年 秋季不明

◎昭和24年

・春季全県 6月（4校）

能代南1～2本荘

・第31回全県大会

能代南4～11秋田南（現・秋田高）

能代南	1	0	0	0	0	0	0	0	3	4
秋田南	5	0	1	0	0	0	0	5	×	11

（能代南）本庄・加茂谷・宮腰一齊藤

〈監督〉平川 民治

〈部員〉3年生

◎小笠原美津雄 佐藤 瀧志

岩山 肇 宮腰庄一郎

加茂谷 彦 柳谷 祥一

小坂 公一 飯坂 勝美